

# 玉野市立荘内中学校

生徒数 393名 ・ 学級数 14学級 ・ 教職員数35名（平成27年1月22日現在）

## ○取組実践のキーワード

岡山型学習指導のスタンダードに基づいた授業づくり 学習習慣の確立（「家勉90分超」）

## ○標題（研究主題）

わかる授業、できる喜びが味わえる授業づくり 通常学級における個別の支援のあり方

## ○取組を始めた経緯

基礎・基本の定着不足、応用力の不足（特に数学）、平日及び休日の家庭学習時間の不足 など

## ○取組の実施体制

平成26年度から、校内で学力向上推進委員会を立ち上げ、各教科の学力向上ではなく、校内全体としての取り組みを検討実施している。

## ○学力向上に向けた具体的な取組

- ・ 授業のユニバーサルデザイン化（岡山型学習指導のスタンダードに基づいた授業づくり）
- ・ 個別の支援計画の作成
- ・ 個別の支援をふまえた授業の校内研修
- ・ 学びの階段・・・階段各ステップの縦面を利用して、公式やことわざ重要語句、定期考査前に試験範囲の重要語句等の掲示（代議員会の活用）「犬も歩けば・・・」「円の面積 $\pi r^2$ 」
- ・ 啓発用懸垂幕・・・「家勉90分超」
- ・ 帰りの会5分間テストを全校実施
- ・ 朝読書の時間に「視写」や「辞書早引き」大会の実施
- ・ 「滴一滴」ノート

## ○現在までの取組の成果と課題

### 1 成果

わかる授業（できる喜びが味わえる授業づくり）に対する教員の意識は高くなってきている。

2学期末に実施された2年生「学力定着状況たしかめテスト」の結果から、理科・国語については全国平均を上回っていたが、数学においてはA問題、B問題ともに下回っていた。

目標や課題を、視覚化することで成果が上がってきていると思われるので、継続実施したい。

### 2 課題

家勉90分超を1週間検証した結果、クリアできた生徒の割合は25%であった。水曜日は、授業も5時間で部活動もなく、多くの生徒は塾に行っているため家勉時間は多かったが、土日は減少した。どの学年も数学の文字式、二次方程式等に明らかな課題が見られた。

## ○取組の継続・発展の要因

- ・授業の振り返りを、次の授業や家庭学習にどうつなげるか検討し実践する。(授業づくりの発展として)
- ・学びの階段、懸垂幕などの定期的な更新が必要。生徒会組織を活用して実施中。
- ・山陽新聞の「滴一滴」ノートを1, 2年生に3学期より取り組ませている。金曜日にその週の「滴一滴」6日分を印刷配付、そのうちの気に入ったもの1~2枚を視写し、月曜日に提出させた。提出率は約7割である。保護者や3年生にも勧めたところ希望者が多数申し出た。この取組により約30分の家勉強が増えたので、来年度も全生徒に取り組ませたい。
- ・帰りの会5分間テストを数学に特化する。

## ○管理職・中核教員等のアクション

- ・放課後、数学の補充学習の実施
- ・数学科の教科会、伝達研修会の実施、来年度の学力調査に向けての取組を検討
- ・定期的な生徒アンケートの実施と、保護者地域への啓発
- ・特別支援教育推進委員会の活性化と、個別の支援計画の作成
- ・小中連携として、中学校の定期テスト期間に小学校も「家庭学力推進週間」を設定し、保護者に文書で協力を求めた。「スマホ9時まで」の依頼文も小中のPTA会長と校長との連名で配付した。
- ・毎日の連絡帳「私の記録」の改訂に取り組んだ。現在横書きのものを縦書きにし、家勉強する予定や記録を残し、1週間の振り返りができるようにした。
- ・キャリア教育の校内研修の実施とプレゼンテーションの作成